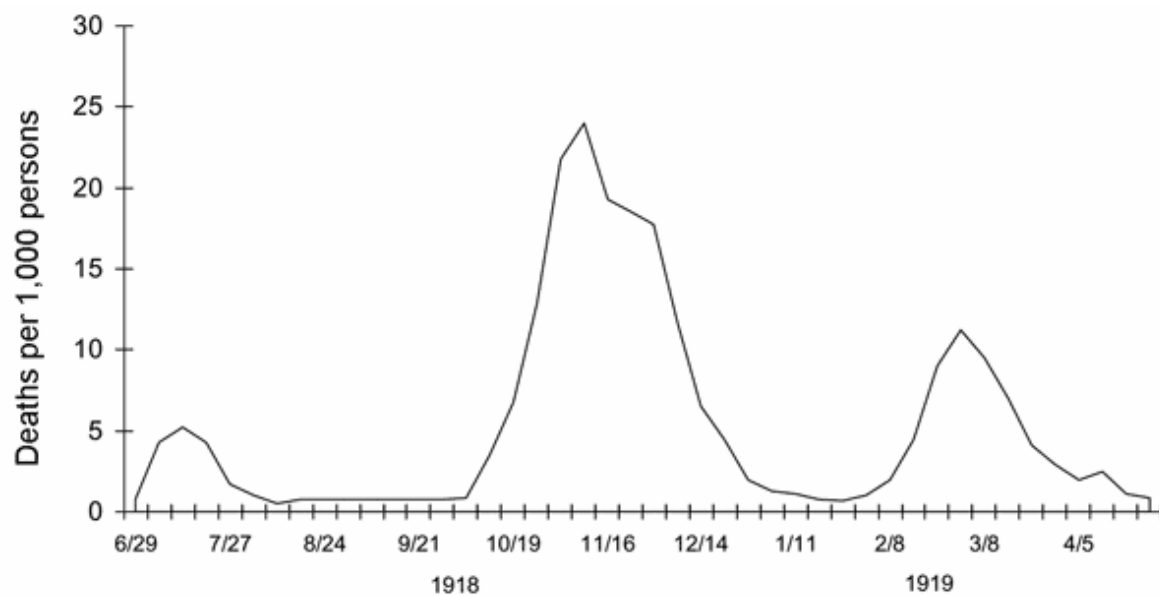


7月17日朝記

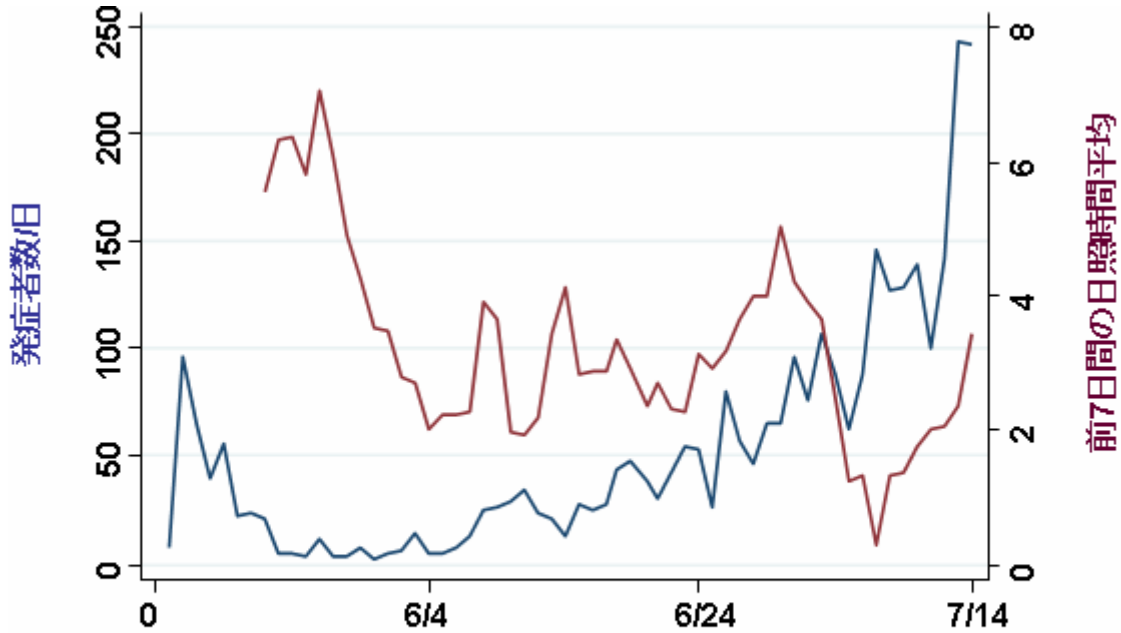
国内での感染が続いている。ついに 3000 人を突破してしまった。1918 年スペイン風邪流行時のイギリスのデータと比較してみよう。



縦軸は人口当たりの死亡率である点に注意していただきたい。記載によれば夏の患者は非常に多かったようである。日本は今将に最初の流行期にあると考えられる。

スペイン風邪と同様の流行曲線を描くとすれば、9月後半から再度流行する可能性がある。

日照時間と1日あたり（発症日別）の患者数と対比してみた。



前7日間の日照時間平均 x (-15) + 101 = 発症患者数/日
P = 0.004

日照時間は発症日をゼロとした場合、-8~-2の7日間の平均値である。上図で青が1日あたりの患者発症数であり、赤が日照時間である。日照時間が増えると患者発症が減り、逆に日照時間が減ると患者発症が増えている。統計学的にも有意な関係にある。特に7月に入ってからの患者数増加は日が照る日数が少なくなっていたからではないだろうか？

仮に人々の日照時間が減ると自然免疫が低下するとする。そしてウイルスに感染し2~3日（1~4日）の潜伏期間を経て発症する。そのため、日照時間が減少して数日後に患者数が増加する可能性はある。

今週に入り東京では梅雨が明けた。本日はあまり天気がよくないが、今後確実に日照時間が増えれば来週あたりから患者発症数は減少してくるのではないだろうか？